

【日 時】 平成 30 年 2 月 21 日 10:00～12:00

【出 席】 協議会委員

学識経験者、地域の住民、保護者代表の 5 名

学校長

事務局職員 11 名

【会議録】

学校長挨拶

保護者からの意見調査は審議なし

首席より学校教育自己診断の評価結果報告

・交流および共同学習について下がっているが、これは意識の問題か、他に要因があるのか。

⇒教員の入れ替わりや意識が下がっているのではないかと。また中高等部の居住地校交流は少なく学校間交流が主なのでこのような数値がでていられるかもしれない。両校にメリットがあり、互いに高めあうことが必要になる。

・どこで交流をしているのか。

⇒居住地校交流は各市町村で、交流校は小学部が旭幼稚園、旭・太田小学校、中学部は土生・岸城中学校、高等部は久米田・和泉高校。

・設問で「学校は子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている」とは具体的にどういうことか。

⇒府教委からの指示で必須になっている項目である。

・当然、学校としてしていると思うが、具体的な提示があればいいのではないかと。

・保護者としては何を問われているのかわかりにくい。この学校でも設問としては難しいのではないかと。人権やプライバシーの設問も下がっているが、きちんと対応していれば下がることはないのでは。さらに分析を深めていただきたい。

・教員の人事異動はどのようになっているのか。一般校からの異動は。

⇒初任は 7 年目までに異動する。年齢構成では 40 歳台が少なく、初任は増加傾向、平均年齢は 41 歳で入れ替わりが著しい。一般校からの異動は、ほとんどなく初任が圧倒的に多い。

・医ケアの設問に未回答がある。医ケアの範疇がわかりにくいので、項目を明示するなどの工夫が必要。

授業見学

校長より平成 29 年度学校経営計画及び学校評価についての報告。

・地域を支援できる人材の育成を図るが△なのは評価が下がったためか。

⇒合同相談会は複数で参加し、専門性の向上を図ったが結果的に評価は下がってしまった。次年度は教員の得意分野を登録制にして取り組む。

・協働研究は朝陽小学校からの提案か。

⇒岸和田市教委、岸和田支援、佐野支援の協働研究で 3 年目になり、朝陽小学校が参加してくれた。さらに取組みが広がっていきばいいのだが。

・他市でもこのような取組みがされているのか。

⇒泉南ブロック会議で共有化されており、泉南支援と泉南中学校の例を聞いている。

・これらの業務は兼務では困難さを感じる。

⇒府立学校ではリーディングスタッフに対して週 8 時間の非常勤講師がついている。市町村のリーディングスタッフは通級指導等をしているが加配はもらっていないのではないかと。

・専門性が課題となっているが、現実的にどのようなものが求められているのか。機能面以外にも多角的に必要なことがあるのではないかと。

⇒ユニバーサルデザイン、障がい理解についての専門性は上がっているが、一般学級の先生方まで広がっていない。

・通常学級と支援学級の連携が大切であり学校全体で考えなければならぬ

校長より平成 30 年度学校経営計画及び学校評価についての報告。

・AI ロボットとは。

⇒触る、話しかけるなどの関わり方によって反応がみられ、小学部段階からのキャリア教育に繋げていく。

校長より学校運営協議会についての報告。

事務連絡、閉会

(・ 委員意見 ⇒ 事務局意見)